

## 第十四章 耳鼻咽喉科プログラム

### 1. 研修の特徴

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は診断から治療までを行う内科系要素と外科系要素を有する科です。したがって、腫瘍、炎症性疾患を始め、聴覚・平衡・嗅覚・味覚・音声・嚥下・顔面神経の機能障害などの多彩な疾患の診断から内科的治療そして外科的治療までを一貫して研修することができます。さらに新生児から高齢者まで性別に関係なく、すべての人を対象に研修をすることが可能です。その中で患者－医師の関係を確立する力、チーム医療、問題対応能力などが涵養されます。また耳鼻咽喉・頭頸部外科は、聴く、嗅ぐ、味わうといった感覚器を始め、話す、食べるなどの人間が生活を営むために必要な器官を扱います。これらの障害を有する患者と接する中で、患者の不自由さを理解し、医療人としての姿勢と態度を学ぶことができます。

・将来、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医を志望する場合は、高度な専門医を目標に大学病院等にて臨床トレーニング、更に基礎的・臨床的研究に従事し、日本耳鼻咽喉科学会認定専門医を最短 6 年で修得できます。また日本気管食道科学会認定医、日本アレルギー学会専門医などの修得も可能です。

### 2. 研修目標

#### A 経験すべき診察法・検査・手技

##### (1)外来診療および病棟診療において医療面接ができる

- 1) 患者とのコミュニケーションの意義の理解、コミュニケーションスキルの修得、患者の解釈モデル、受診動機、受診行動の把握
- 2) 患者の病歴の聴取と記録
- 3) 患者・家族への適切な指示・指導

##### (2)基本的な身体診察法

- 1) 術前の全身診察、耳鼻咽喉科疾患と関係のある疾患で全身診察ができる
- 2) 耳、鼻、咽頭、喉頭、頸部などの頭頸部の診察ができる

### (3)基本的な臨床検査

・耳鼻咽喉科疾患の診断および治療方針を決定するために必要な検査法の適応が判断でき結果の解釈ができる

- 1) 細胞診・病理組織検査
- 2) 内視鏡検査（鼻腔ファイバー、喉頭ファイバー）
- 3) 超音波検査（頸部リンパ節、甲状腺）
- 4) 単純 X 線検査
- 5) 造影 X 線検査
- 6) X 線 CT 検査
- 7) MRI 検査
- 8) 核医学検査
- 9) 神経生理学的検査（ABR、ENG）
- 10) 聴力検査
- 11) 平衡機能検査

・術前および術後検査結果を評価できる

- 1) 一般尿検査
- 2) 便検査
- 3) 血算・白血球分画
- 4) 血液型判定・交差適合試験
- 5) 心電図（12誘導）
- 6) 動脈血ガス分析
- 7) 血液生化学的検査
- 8) 血液免疫血清学的検査
- 9) 細菌学的検査・薬剤感受性検査
- 10) 肺機能検査

### (4)基本手技及び基本的治療法

・術前・術後の管理および処置ができる

- 1) 包帯法
- 2) ドレーン・チューブ類の管理
- 3) 胃管の挿入と管理
- 4) 創部消毒とガーゼ交換
- 5) 採血法（静脈血、動脈血）
- 6) 注射法（皮内・皮下・末梢静脈）
- 7) 導尿法

## 8) 圧迫止血法

- ・簡単な手術手技・手術ができる
  - 1) 局所麻酔法
  - 2) 簡単な切開・排膿
  - 3) 皮膚縫合法
  - 4) 鼓膜切開術
  - 5) 鼻粘膜焼灼術
  - 6) 咽頭扁桃切除術
  
- ・手術の助手ができる
  - 1) 耳科手術
  - 2) 鼻副鼻腔手術
  - 3) 咽頭・喉頭手術
  - 4) 頭頸部手術（気管切開術、頸部リンパ節生検）
  
- ・薬物治療の適応と副作用を理解し的確な投与ができる
- ・基本的な輸液の適応と副作用を理解し的確な投与ができる
- ・輸血の適応と副作用を理解し的確な投与ができる

## (5)医療記録を実践できる

- 1) 診療録を POS に従って記載・管理
- 2) 処方箋・指示箋の作成・管理
- 3) 診断書・死亡診断書・死体検案書・その他の証明書の作成・管理
- 4) CPC レポートの作成・症例呈示
- 5) 紹介状と、紹介状への返信の作成・管理

## (6)診療計画を実践できる

- 1) 診療計画の作成
- 2) 診療ガイドラインやクリティカルパスの理解と活用
- 3) 入退院の適応の判断
- 4) 総合的な管理計画への参画

## B 経験すべき症状・病態・疾患

### (1)頻度の高い症状

- 1) リンパ節腫脹

- 2) 発疹（耳、鼻、頸部）
- 3) 発熱
- 4) 頭痛
- 5) めまい
- 6) 聴覚障害（難聴、耳鳴り）
- 7) 鼻出血
- 8) 嘔声
- 9) 呼吸困難
- 10) 咳・痰
- 11) 嘔気・嘔吐
- 12) 嚥下困難
- 13) 耳痛
- 14) 耳漏
- 15) 顔面神経麻痺
- 16) 鼻漏
- 17) くしゃみ
- 18) 鼻閉
- 19) 咽頭痛
- 20) 頸部腫瘤

(2)緊急を要する症状・病態

- 1) 急性感染症（扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎、深頸部蜂窩織炎）
- 2) 外傷
- 3) 誤嚥

(3)経験が求められる疾患・病態

- 1) 急性上気道炎
- 2) 中耳炎
- 3) 急性・慢性副鼻腔炎
- 4) アレルギー性鼻炎
- 5) 扁桃の急性・慢性炎症性疾患
- 6) 外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の異物
- 7) ウイルス感染症
- 8) 細菌感染症
- 9) アレルギー性疾患
- 10) 環境要因による疾患

- 11) 高齢者の栄養摂取障害
- 12) 老年症候群（誤嚥）
- 13) 頭頸部腫瘍